

2024年1月 東京地区百貨店売上高概況

2024年2月22日

I. 概況

1. 売上高総額	1,353億円余
2. 前年同月比(増減率)	6.7%(29か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭7.7%(92.5%)：非店頭-4.7%(7.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (2023年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	744,130㎡ (前年同月比：-1.9%)
6. 総従業員数	13,525人 (前年同月比：-6.3%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 10.8%、7-9月 9.6%、8-10月 8.1%、 9-11月 8.1%、10-12月 7.8%、11-1月 7.4%

[参考] 2023年1月の売上高増減率は19.6%

【特徴】

1月の東京地区は、売上高6.7%増(29か月連続)、入店客数7.8%増(13か月連続)と、共に前年実績を上回った。コロナ5類移行後の初商が入店客も増加し堅調に推移した他、増勢が続くインバウンドも売上全体を押し上げた。2020年比では4.7%増、2019年比でも2.2%増と、4か月連続でコロナ前の水準を上回る業績となった。

商品別では、主要5品目全てプラスとなった。主力の衣料品(4.2%増/28か月連続)は、暖冬の影響からコート等重衣料は低調だったが、ジャケットやブルゾン、ニット等、春先まで着られるアイテムが好調だった。クリアランスセールは規模縮小傾向もあり振るわなかったが、その半面プロパー商材が伸長した。

身のまわり品(8.1%増/29か月連続)は、ラグジュアリーブランドがインバウンド需要もあり引き続き好調に推移した他、婦人靴ではパンプスの動きが良かった。雑貨(12.8%増/29か月連続)は、化粧品が27.2%増と高伸し、国内外共にスキンケア、メイクアップいずれも好調だった他、各ブランドの新作にも動きが見られた。

食料品(1.6%増/2か月ぶり)は、菓子が7.7%増となり、年始やインバウンドの手土産需要の他、1月下旬からスタートしたバレンタイン商戦も活況で、限定商品等展開アイテムを拡充すると共に、催事場でのイートインや試食を再開したことで、顧客の店頭回帰が顕著となっている。その他のイベントも好評で、年初は順調な滑り出しを見せた。

2月中間段階の商況は、前年比24.8%増(2/15時点)で推移している。2020年比では25.1%増、2019年比でも23.3%増と上昇基調は継続している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日(前年同月比 -0.1日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
 - ①増加した：15店、②変化なし：2店、③減少した：1店
- (3) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上(同上/有効回答数12店舗)
 - ①増加した：7店、②変化なし：5店、③減少した：0店

東京地区百貨店 売上高速報 2024年1月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	135,337,115	100.0	6.7
紳士服・洋品	10,669,545	7.9	-0.3
婦人服・洋品	22,797,948	16.8	7.2
子供服・洋品	2,028,466	1.5	5.0
その他衣料品	1,689,155	1.2	-4.5
衣 料 品	37,185,114	27.5	4.2
身のまわり品	25,120,294	18.6	8.1
化粧品	11,891,190	8.8	27.2
美術・宝飾・貴金属	15,149,875	11.2	7.7
その他雑貨	4,312,243	3.2	-1.5
雑 貨	31,353,308	23.2	12.8
家 具	1,781,835	1.3	25.4
家 電	746,287	0.6	-24.2
その他家庭用品	3,238,423	2.4	9.8
家 庭 用 品	5,766,545	4.3	7.7
生 鮮 食 品	3,205,724	2.4	2.9
菓 子	9,327,812	6.9	7.7
惣 菜	6,287,812	4.6	1.1
その他食料品	10,321,838	7.6	-3.5
食 料 品	29,143,186	21.5	1.6
食 堂 喫 茶	2,430,542	1.8	9.0
サ ー ビ ス	1,984,162	1.5	8.3
そ の 他	2,353,964	1.7	16.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,021,031 千円	-8.6
従 業 員 数	13,525 人	-6.3
店 舗 面 積	744,130 m ²	-1.9

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.1 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、婦人服・洋品、化粧品が29か月連続、生鮮食品、菓子が4か月連続でプラスとなった一方、紳士服・洋品が27か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	6.7	—	29か月連続プラス
紳士服・洋品	-0.3	-0.0	27か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	7.2	1.2	29か月連続プラス
子供服・洋品	5.0	0.1	19か月連続プラス
その他衣料品	-4.5	-0.1	2か月連続マイナス
衣料品	4.2	1.2	28か月連続プラス
身のまわり品	8.1	1.5	29か月連続プラス
化粧品	27.2	2.0	29か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.7	0.9	8か月連続プラス*
その他雑貨	-1.5	-0.1	23か月ぶりマイナス*
雑貨	12.8	2.8	29か月連続プラス
家具	25.4	0.3	4か月連続プラス
家電	-24.2	-0.2	4か月連続マイナス
その他家庭用品	9.8	0.2	3か月ぶりプラス
家庭用品	7.7	0.3	2か月連続プラス
生鮮食品	2.9	0.1	4か月連続プラス*
菓子	7.7	0.5	4か月連続プラス*
惣菜	1.1	0.1	2か月ぶりプラス*
その他食料品	-3.5	-0.3	11か月連続マイナス*
食料品	1.6	0.4	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	9.0	0.2	23か月連続プラス
サービス	8.3	0.1	2か月ぶりプラス
その他	16.7	0.3	12か月連続プラス
商品券	-8.6	-0.1	11か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>